



TITLE:

物性研の運営と機構(<特集>我国に
於る物性物理の研究体制について)

AUTHOR(S):

森垣, 和夫

CITATION:

森垣, 和夫. 物性研の運営と機構(<特集>我国に於る物性物理の研究体制
について). 物性研究 1969, 12(1): 80-82

ISSUE DATE:

1969-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87142>

RIGHT:

物性研の運営と機構

東大物性研 森 垣 和 夫

新しい研究所も10年以上経過すると動脈硬化におち入ると云われている。物性研も創立以来12年を経過し、現在、体質改善更には、将来への計画を含めて、所内で討議が始められた。しかし、ここでは編集部の御要望によって物性研の現在の運営と機構についてのみ簡単に述べて見たい。物性研は、1957年（物性研究者の総意を反映し）、学会会議からの勧告に基づいて、全国共同利用の性格をもつ東大附置研究所として設立された。研究部門としては、現在20部門あるが、更に1969年度新設部門として中性子回折部門が設置されることになっている。共通実験室としては、低温液化室、中性子回折室、試料作製室、超高圧共通実験室等現在9実験室がある。ここでは、中性子回折、超高圧等、特に全国的な共同利用に広く寄与している実験室が含まれている。

一部門の構成は教授1，助教授1，助手2，技官又は技術員2からなっている。教授，助教授は夫々独立の研究室をもち、研究単位を構成している。部門内の研究室更には、他部門間で、研究テーマに応じて共同研究が行なわれている。

研究所の運営は共同利用研究所としての機能を果たす目的のために、物性研協議会が所長の諮問機関として置かれている。ここでは研究所の共同利用施設の運営の基本的方針について所長の諮問に応じて意見を述べるものとされている。委員は、所外から約17名^{＊)}、所内から4名、計約21名からなっている。所外の委員の内、物小委からの推薦で5名の人が加わっている。

所員会は教授，助教授から構成され、研究所の管理，運営に関する重要事項の審議，決定又は承認を行なう。所長の選出，教授，助教授，助手の人事決定，予算の審議承認，共同利用施設専門委員会での諸事項の承認，共同利用研としての運用上の諸事項（施設利用その他）の決定，研究部門の将来計画に関する問題等が含まれる。

共同利用施設専門委員会は、所員会の下部委員会の1つであって、構成委員は所内外ほぼ同数である。所内からは所員全員、所外からは約20名が参加す

る。所外委員の大半は物小委からの推選による。年2回開催され、短期研究会、共同研究、外来研究員等の応募に関する審議、更に共同利用に関係する諸事項についての討議を行なう。ここでの決定は、公式的には、所員会で最終的に承認されるが、実質的には、共同利用施設専門委員会の意向がそのまま承認される。

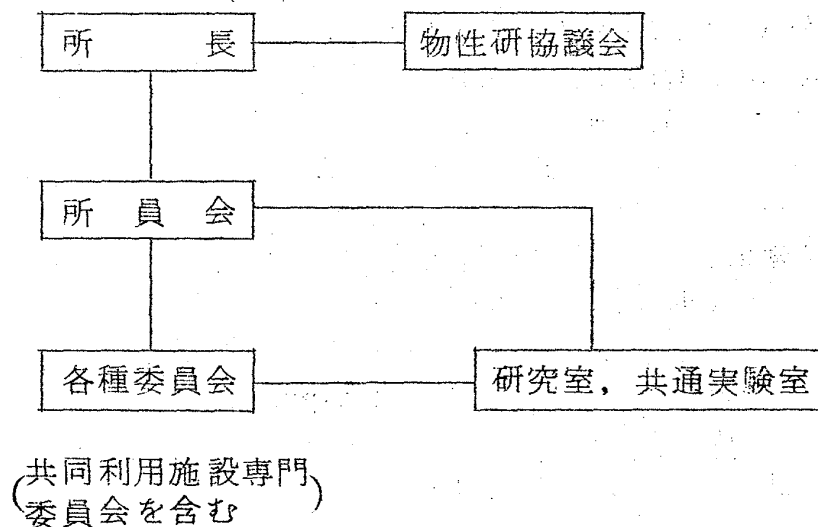
所長は所員会を主宰し、物性研協議会、人事選考協議会、共同利用施設専門委員会の議長として、会の議事運営にあたる。又所長は大学の評議会の一員として評議会に加わり、大学の管理・運営に関与している。その他大学で決められた範囲での裁決事項がある。

所員会の下部委員会の1つである企画委員会は、所長のブレーンの役割をもち、従来の運営では、予算、将来計画等の所の重要事項に関して所長の補佐的役割を任っている。企画委員会の委員は、物性研協議会、人事選考協議会の所内委員と共に、所員会において互選によって決められる。

共同利用に関係した下部委員会としては、外来研究員等委員会があり、共同利用施設専門委員会に提出する資料の予備的査定。外来研究員に関する諸事項の審査を行ない、最終的には所員会に承認を求める。

所内の実際的な各種の運営に関しては、管理委員会、図書委員会、工作委員会等の委員会が設けられている。それらの一部の委員会には、助手が参加している。

下図に、研究所運営の従横の連絡機構を図式的に示されている。



最後に人事選考に関する運営方法について述べたい。人事選考に関して所外研究者の意向を反映させるために、人事選考協議会が設けられている。教授、助教授の場合は、公募した候補者について、この協議会で選考を行ない、推選された候補者について所員会で最終的に可否の投票によって決定する。人事選考協議会は、所長及び所内外共5名ずつの委員からなり、所内委員は、所員会の選挙によって選ばれる。(教授選考の場合は教授の中から、助教授選考の場合は、教授、助教授から選ばれる)。所外委員は物小委からの推薦に基づいて所員会で決定される。助手の場合は、公募した候補者について所内選考委員会で選考し、人事選考協議会の承認を経た候補者について所員会で可否の投票を行なう。

所外研究者との連絡を密にするために、“物性研たより”が隔月に発行されている。

現在、物性研の研究体制、運営機構、更に将来計画について、理論、物理実験、化学の3分科に分かれて討議が進められていることを附記して終りにしたい。

米)	物小委よりの推薦	;	5人	
	化学会より	;	2人	
	基研より	;	1人	
	(物小委よりの5人に基研の人間が入っている場合は、別に選ばない。)			
	工学関係(所員会で決定)	;	1人	
	東大理学部より(理学部長に依頼)			
	物 理	;	2人	
	化 学	;	1人	
	俣 留	;	1人	
	駒場から推せん	;	1人	
	官 職 指 定 (東 大)			
	工 学 部	}	事務長	1人ずつ
	理 学 部			
	核 研			
	計		17人	